

只見線が通るこの町を旅の終着点に



—はじめに、只見町を知ったきっかけを教えてください。

子どもの頃から鉄道が好きで、小学生の頃から毎年、母方の祖父に会津若松に連れてきてもらっていたのですが、会津若松駅で只見線の車両を見て、自分もあれに乗りたい！1日3本しかないこの路線に乗ってこの只見って場所に行ってみたい！と思っていたのを覚えています。

会津若松駅で只見線の車両が止まっているのを見れることの方が珍しいから、時刻表を開くたびに、多分一番最後に乗る路線になるかなとは思っていましたね。

その後、高校生の頃から旅をしている中で、同じ鉄道好きとして知り合った旅仲間の中に只見線のことを好きな方がいて、その方は2011年の豪雨災害の時もボランティア活動していた方なのですが、只見線が再開したら一緒に乗ろうと約束していたんです。

ただ、その方は只見線再開通前に体調を崩して亡くなってしまい、それ以来その方の命日の日に毎年只見線に乗りに来ていました。

初めて冬に只見線に乗って来た時、小出方面からの最後のトンネルを出て広がったこの町を見て感動したんですよね。亡くなった旅仲間の、これがあの人が好きだった町なんだって．．．
その時からなんとなく、この町で暮らしたいと考え始めました。

—その頃から移住を考えていたんですね。

そうですね。移住したいという気持ちは強かったのですが、当時家族がいたので簡単には移住を決断できませんでした。

その後家族とお別れし、今後の生活を考えたときに地方に行こうと決め、自分で旅してきた中で何度も足を運んだ場所、只見町と磐越西線の日出谷駅、北陸西線の筒石駅が頭に浮かびました。

ただ、日出谷駅と筒石駅はその地区限定で住みたいという考えだったのですが、只見だったら、とりあえず只見町の中に住めればいいと思えたとし、除雪の仕事をやってみたいという気持ちもあったので、只見町にしようかと。

最後の決め手は、只見線に乗って只見町に向かう予定の日に大雪予報が出ていたんです。これで只見に行ってみて自分の気持ちが変わらなかったら僕は移住すると友達に宣言してから来て、翌日大雪の影響で只見線が運休になった時にもなんとも思わなかったんですね。別にもう帰れなくてもいいやって。そう思えたからこの町に移住する気持ちが固まりました。

移住を決めてからは早かったですね。その年がちょうど只見線再開通の年だったので、只見線の再開通までには絶対移住するつもりで動きました。

—3つの選択肢から只見町を選んでいただけで良かったです。無事に再開通に間に合いましたか？

間に合いました！再開通の日も駅で見送ることができました。駅で新聞の取材も受けたんですよ。なので再開通の時の新聞に僕も載っています。



—新聞記事読ませていただきとても感動しました！

では次に、移住してからの暮らしをお伺いしてもよろしいですか？

建設会社に就職して現場責任者として働いています。仕事が終わったら大体まち湯（只見保養センターひとつぶろまち湯）に行くのですが、まち湯が休みの日は湯ら里の温泉や大塩温泉にその時の気分次第で通っています。会社から家に帰ってきて、どこのお風呂に行こうか悩んでいます（笑）



もともと温泉が好きだったので、この辺りは車で行ける範囲に温泉が結構あるので嬉しいですね。

だからか東京に戻って知り合いに会った時に、移住してから肌艶良くなってない？って言われて（笑）

自分ではわからないですけど、会う人には肌の艶が違うって言われます。

—毎日お風呂に通う生活、羨ましいです！

お休みの日はどのように過ごされているんですか？

休みの日はほぼ毎週、只見線で車内販売と案内のボランティアをやっています。車内販売をやっていることは旅をしていた頃から知っていたんですが、移住してきて会津川口駅まで往復しようと只見線に乗りに行ったときに、車内販売を請け負っているNPO法人そらとぶ教室の方にやってみない？と声をかけてもらったのがきっかけです。

最初は乗客の方たちも役場や観光協会などの人だと思い込むみたいなのですが、移住してきて、冬は除雪の仕事をしていることなどを話すと、え！って驚いてくれて、なんで移住したの？とはよく聞かれますね。

臨時列車が走る日は列車から降りてくる人などに駅前で案内もしています。

あと、移住してからは、只見線に乗りたいたんだけどなかなか行けないと言っていた友人たちが、蛭原さんがいるならせっかくだし乗りに行きますって連絡をくれて、只見線と一緒に乗りながら案内しています。

一番驚いたのは、僕のSNSを見て、話してみたいと会いに来てくれた人がいたんです。会えるか会えないかわからないけれど、会えたらラッキーと只見線に乗って来てくれて、無事に会うことができ少し話げできました。

わざわざ会いに来てくれたのは嬉しいですよ。少しは町に貢献できているんじゃないかなと思っています。



案内が無い時は、朝起きてそのまま大塩温泉行ったり、車で南郷の方の温泉に行ったり。後は六十里峠の展望台に行ってみたり。たまに只見線の写真撮りに行ったりもしています。

一土日も精力的に活動されていてすごいですね！

では、只見町で暮らしてみても困ったことなどはありますか？

一番困ったのはやっぱり病院。診療所があるので内科はいいけど、眼科など診療所に無い科になると一番近くても片道1時間、病院に行くために往復2時間かかってしまうことですね．．．

あとは最初の一年目、物を揃えるまではホームセンターなどが片道頑張っても1時間で峠越えなので苦労しました。

一雪では困ったことは無かったですか？

雪は思ったより困っていないですね。

もともと旅をしていた時、冬に雪国ばかり行っていたんです。今年は飯山線に乗りに行こう、次は北上線に乗りに行こうと、あえて豪雪と言われる路線に乗りこ。

雪国の人ってどういう暮らしをしているんだろうってとても気になって、そういう場所ばかり行っていたせいか、移住してからも想像よりは困らなかったです。雪が少なかったですしね、自分が来た年も今年も。

ただ、一昨年12月に一晩で100cm積もったじゃないですか。あれはさすがにびっくりしましたよ。玄関開けたときに自宅から出られないんです！これから仕事なんだけど、どうやって行けばいいんだろうかって（笑）



一あの年はすごかったですよね（笑）

では移住してよかったことも教えてください。

一番は体調が良くなって、移住前のように休みの日に引きこもって居ようというのが無くなりました。車内販売をやってみたり、温泉巡りをしたり、そんなに自然が好きというわけでは無かったけれど、自然に囲まれているから何か珍しい花あるかなとか、ふらっと見て回るのが楽しいです。

四季がはっきりしているから、目の前の山を見ているだけでも楽しいんです。特に印象的だったのが、六十里峠に仕事で行って、雨の日に霧が駆け上がっていくのを見た時に、すげえなって感動して、雨の日は水墨画になるんだなこの町はって．．．

移住前は雨が降った日は仕事に行きたくないと思うこともあったのですが、移住してからは雨でないと見れない風景もあるから行きたくないと思うことも無くなりました。贅沢な仕事をさせてもらっているなと思います。

他にも、冬季通行止め区間の通行止め解除前、道路状況の最終確認をしている時に、雪融けしてきた所から福寿草が見えたんですよ。その時にすごくほっとしたんです。やっと春が来たなって。

長い冬が終わって春が来る喜びを感じることも只見の良さで、一年の中でも季節が変わるのは楽しいですね。

今が一番、人間らしい生き方をしているんじゃないかな。



一只見らしい暮らしを満喫されているんですね。

では最後に、移住を考えている方に一言お願いします！

冬の一番雪が深い時期に来てそれでもここに住む覚悟ができるかだと思います。一番その地域が大変な季節に遊びに来て、このくらい雪降るよ！このくらい寒いよ！風吹くよ！という事を体感して、それでも自分の決意が揺らがないか。自分は移住する前、全部の季節に来ました。

あと、東京にいた時は当たり前だったことが、当たり前じゃなくなるので、その不便さを逆に楽しみにできるか。

例えば大手のコンビニまで車で1時間かかるんだけど、大変だなじゃなくて、よしコンビニに遊びに行くぞ！みたいな（笑）

コンビニに行くのがすごく楽しみになっていて、行くとテンションが上がるんです。コンビニ弁当がすごい贅沢品というか、金額云々じゃなくてたまにしか買いに行けないですから。東京の友達には笑われましたよ（笑）

道中も大自然の中を通っていくので、雨の日には今日は霧がきれいだなとか、夏の夕方の六十里峠はこんな風景なんだとか、あえて帰りに遠回りをして別のルートで帰ってきたり、不便さも楽しみに変えていければ楽しく生活できますよ。



2024.06.29